

環境教育における比較思考を促す交流学習の研究

宮城教育大学大学院教育学研究科（修士課程）

学校教育専攻 環境教育実践専修

07023 田村 直也

1 研究の背景・目的

近年環境問題への関心が高まり、様々なメディアで地球温暖化防止や3Rの取り組み等が伝えられ、学校現場でも「環境教育」への取り組みが意識され始めている。

また、国際的にも「ESD(持続可能な開発のための教育)」という新しい環境教育の概念が提唱され、環境問題に対して、単に知識を身に付けるだけでなく、自ら考え、行動へ移す問題解決的な環境学習が望まれている。

小学校の環境学習を考えたとき、教科の学習と総合的な学習の時間という2つの場面があり、それぞれ別の役割を担っている。教科の役割として、環境に関わる知識の定着を図ることがあげられる。また、複数の教科の中で多様な環境問題を扱うことで、スパイラルに意識の継続を図る役割も担っている。総合的な学習の時間の役割として、教科で得た知識を生かしながら、原因や対策などを考える追究活動を通して、自ら考え、実践力を高めることが挙げられる。

両者の特性を生かしながら、児童の思考を引き出していくにはどのような学習法が考えられるだろうか。今回は自身の実践から、交流学习を通し、思考が広がった児童の姿に着目した。その実践の中で、互いの考えや環境の違いを比較することで、思考を深めていた児童がいた。では、比較を効果的に生み出し、学級全体に広げていくための交流学习はどうあるべきだろうか。本研究では「比較思考を促す交流学习」のモデルの開発を目指した。

2 交流学习の分析と文献調査

まず、環境教育における比較思考を促す交流学习のモデルを探るために交流学习(H19年度)の調査・分析と文献調査を行った。

交流学习(H19年度)の分析では、総合的な学習の時間「米について考えよう」を中心とした5年生の学校間交流学习(仙台市立岩切小-愛知県名古屋市立南陽小)を取り上げた。交流学习を進める上で児童の意識にどのような変容をもたらすか、また担当教諭が児童の学びにどのような変化を感じ取っているかに着目し、交流学习に期待できる要素について調査した。交流学习全般を見ると児童の学習スキルが、向上したのは明らかであった。意識調査では、特に「自文化理解」の向上が著しく、また「暮らし興味」「共通点理解」「差異理解」などの高まりが見られた。比較しながら交流していくことが、他地域への理解だけでなく、自分自身を知ることにもつながっていることが分かった。担任所見からは、地域の開発の問題で共感し合える部分では効果的であったと言える。ただ開発の討論会以外の部分、特に課題別グループ学習では比較思考が十分働いていないことがあった。グループ間の話し合いの内容と観点を明確にしていけない、調べた事象を伝えるだけで終わってしまっていることが理由として考えられる。比較思考を引き出すためには、学習の内容と観点を児童が押さえ、共通点と相違点を確認し、そこから何が分かり、どんな疑問がでてくるかを整理する活動が必要

であることが分かった。

文献調査では、「平成10,13,15年度インターネットスクールたったひとつの地球ネットワークプロジェクト活動報告書」から比較のパターンを抽出した。題材の分析からは、多くの学校で身近な題材を取り上げていることが分かった。しかし、学習の課題として取り上げられるものにはバラつきがあり、大きなテーマが同じだからといっても、交流している学校間ではじめから同じ課題に目を向けているとは限らない。お互いの情報を交換する中で、「自分たちの地域はどうなっているのだろう」という疑問をもち、調べていく過程で自然な比較が生まれ、思考が深まっていくと考えられる。差異の分析からは、交流学習では、場所的差異や事物的差異が多く扱われていることが分かった。これは地域差を生かした交流学習の特性が表れたものと考えられる。児童の思考を促すためには、どの差異を取り上げるのが重要なのではなく、差異を考える場を教師が意図的にカリキュラムの中に位置づけることが重要だと考えられる。

3 モデルの作成と授業実践

交流学習(H19年度)の分析と文献調査から、比較思考を促す交流学習のモデルを作成した。モデルの作成に当たっては、交流学習のデザイン、交流相手の選択、交流学習のコミュニケーションツールの3点で検討した。デザインでは、共通のテーマ、活動のゴール、ゴールに進めるための工夫を考えた。相手の選択とツールでは、学校現場で実際に活用できる在り方を考えた。

このモデルをもとに交流学習(H20年度岩切小―山形県南陽町立犬川小)を行い、有効性を検証した。前年度と同じ学年・テーマであったが、比較思考を促す手立てとして、

比較表の作成、討論会、共同制作を取り入れた交流学习を意図的にデザインした。比較表を作成することは、お互いが調べている内容を確認し、相手と自分たちの興味・関心のずれを感じ取ったり、新しい疑問を引き出したりするに役立っていた。討論会では、生の声に触れることで、多様な考えに気付いたり、自分の考えをより強くもったりすることができた。共同制作は、下絵のアイデアを比べ合う中で、自分たちの学びを振り返り、今後の生活の在り方を考えるきっかけになっていた。比較思考を促す交流学习のデザインの要素として、比較表の作成、討論会、共同制作が有効であることが分かった。そして最後に、実践の総合考察としてチェック項目を作り、比較思考を促す実践シートの作成をした。

4 まとめと今後の課題

文献調査や実践事例から、交流学习を通して促される比較思考のパターンや要素を探り、モデルを開発することができた。

比較思考を促す方法として、比較表、討論会、共同制作を授業のデザイン要素として取り入れ実践を行ったが、児童の変容から効果があることが証明された。

今後は、新学習指導要領の実施に伴い、教科の指導内容の変更や削減された総合的な学習の時間に合うように、全教育課程を考慮したカリキュラムの作成が課題である。また、交流学习を効果的に進めるための情報機器の整備や交流学习を進める教師のネットワークづくり、そして児童の情報活用能力の育成が必要になる。

今後も環境をテーマにした交流学习が行われるよう、実践・啓発を進めていきたい。

<目次>

第1章 研究の背景と問題意識.....	1
1 ESD という新しい環境教育の概念.....	1
2 小学校の教育課程における環境教育.....	2
2-1 教科の中の環境教育.....	2
2-2 総合的な学習の時間と環境教育.....	3
3 これまでの取り組みの中から.....	5
第2章 研究の目的.....	11
第3章 方法.....	12
1 比較思考の定義.....	12
1-1 比較思考.....	12
1-2 比較思考の分類.....	13
2 交流学习の定義.....	15
2-1 交流学习とその形態.....	15
2-2 交流学习で身に付く力.....	17
3 実践の方法.....	19
第4章 結果と考察.....	20
1 環境教育における比較思考を促す交流学习のモデルを探る.....	20
1-1 岩切小平成19年度交流学习の分析.....	20
1-1-1 概要.....	20
1-1-2 児童への質問紙調査.....	21
1-1-3 担任教諭の所見から.....	23
1-1-4 考察.....	25
1-2 NHK放送番組「たったひとつの地球」の文献調査.....	26
1-2-1 取り上げられた題材.....	26
1-2-2 差異毎の分類.....	27
1-2-3 考察.....	28
1-3 比較思考を促す交流学习のモデルに必要な要素.....	29
2 実践を通し、有効性を検証する.....	30
2-1 比較思考を促す交流学习のモデルの検討.....	30
2-1-1 交流学习のデザイン.....	30
2-1-2 交流相手の選択.....	32
2-1-3 交流学习のコミュニケーションツール.....	33
2-2 岩切小平成20年度交流学习の実践.....	36
2-2-1 概要.....	36
2-2-2 比較表.....	37
2-2-3 討論会.....	44
2-2-4 共同制作.....	48

2-2-5 考察.....	53
2-3 比較思考を促す交流学习の実践シート.....	54
第5章 まとめ.....	58
1 結論.....	58
2 課題.....	59
謝辞.....	61
参考文献, 参考資料.....	62
資料.....	64
1 小学校に取り上げられている環境教育に関わる学習.....	64
2 平成17年度岩切小4年生総合的な学習の時間「環境について考えよう～我ら岩小エコレンジャーJr.～」活動計画.....	68
3 エコレンジャーJr.活動記録.....	73
4 平成18～20年度岩切小5年生総合的な学習の時間「お米について考えよう」活動計画.....	77